

○修学旅行（沖縄）の様子と生徒の感想



（左）平和祈念公園を見学しました。



（右）SDGs 探究プログラムにて訪れた
末吉公園

☆参加した生徒の感想

2年 N.M さん

嘉数高台公園に行って普天間基地を見た。いつもとは違う、とても大きな音を聞いた。初めは何の音なのか分からず、とても怖かった。その音の正体は、米軍の航空機だった。

普天間基地は世界一危険な飛行場と言われている。なぜなら、近くには住宅街が広がって小学校、中学校、高校があり、人々の生活が営まれている。でも航空機の部品が落ちて来たり、航空機が墜落したり、授業中でも航空機の騒音で授業が止まったりは日常茶飯だ。

沖縄県の 15%が米軍基地だという。たったの 15%かも知れないが、日本全体の基地の 7 割を沖縄県が負担している。何度も戦争を経験して平和は大切だと理解しているのに、戦争を思い出させるような米軍基地は、こんなに沢山必要なのか。国際関係のために国民の声を無視してまで米軍基地を置く必要はないのかも知れない。

2年 H.Y さん

私は SDGs 探究プログラムの「自然環境コース」に参加し、様々なことに驚き興味を持ちました。

末吉公園では、関東の蛍は水辺に生息するのに対し沖縄県の蛍は陸で生息し、食べるものも異なることを学びました。沖縄県は、私たちが住んでいる神奈川県とは全く違った環境であり、だからこそ全く違った生態系が作り上げられているのだと考えます。

次に、沖縄県総合福祉センターに行き、カードゲームを通じて生態系や環境についての考えを深めました。そのゲームは、生態系における地位が上位のものから下位の一列に繋げるもので、楽しみながら関係性を学ぶことができました。また「アタックカード」という環境破壊のカードを用いると、どれくらいの影響を自然に及ぼすかも学習できました。自分にできることを探し、環境の改善に向けて日々できることを実行していこうという考えを改めて持ちました。もう絶滅してしまった動物や絶滅しそうな動物がいることを知り、とても悔しい気持ちや悲しい気持ちで頭がいっぱいになりました。自然環境における現状を知り、何ができるかを探ることが大事であると思いました。



(左) コーラルビュークルージングの様子

(右) 自主見学で万座毛を見学した生徒

2年 S.S さん

タクシー行動で訪れた目的地の中に、とても印象に残っている場所があります。それは「ブセナ海中公園」にある海中展望台です。海中展望台は、上に伸びている普通の展望台とは異なり、海の中へと繋がっていて水深4～5mまで降りることができます。展望台の中は24面の窓が360度張り巡らされていて、たくさんの魚の自然の姿を見ることができます。海の生物のありのままの姿を目にして、まるで魚と一緒に泳いでいるような新鮮な体験ができました。以前「沖縄にはカラフルな魚が多い」という話を聞いたことがありました。実際に海中展望台で見た魚は本当にカラフルなものが多く、「カクレクマノミ」や「オヤピッチャ」という変わった名前の魚や、「ヤマブキペラ」という普段見ることができない種類もたくさんいました。

私は海中展望台で、沖縄の海の自然にとっても近くで触れることができました。この沖縄のカラフルな海を守るために、私も海の環境保全のために行動したいと心から思いました。

2年 S.M さん

私は「カヌー&マングローブでの体験」や、「その他の自然学習」に取り組みました。

マングローブとは塩水に浸かっても生きられる木々の総称で、それらに囲まれながらカヌーをしました。小学生以来のカヌーだったため、「とても深いから落ちたら怖い」と不安を抱きました。しかし講師の方から2人で協働してカヌーを操る方法を教わり、「2人乗りカヌー体験」を成功させました。

またマングローブについても学習し、そこに生息する生物や多くの物に触れました。そこで考えたことがあります。それは「自分たちの生活の豊かさだけをどんどん追求するのではなく、自然環境も視野に入れる」ということです。体験の中で特に印象的だったのは「人間の持ち込んだ外来種の生物増加」や「マングローブを製炭材として伐採したり、エビの養殖のために整理したりして減少した」という課題です。これらは人間の活動が根本的な原因となっています。私は外来種の生き物を持ち込んだこともないし、ましてやマングローブの伐採なんてしていません。しかし、エビを使った料理を食べているし、私を使う電力を作る際には製炭材が使用されているかもしれないと考えると、他人事ではないなと思いました。

今回の修学旅行は楽しいことばかりでしたが、同時に多くの学びがありました。良い5日間になって良かったです。